

第1章 景観の特性と課題

1. 景観の特性

美しく風格のある奈良を創造していくための基本目標や基本方針を定めるには、本県の景観特性を十分に踏まえることが必要となります。また、地域の優れた景観を把握することが、地域の良好な景観づくりへの第一歩となります。

(1) 地域区分

本県は、地形からみると北部低地帯と南部吉野山地に大別されます。

北部低地帯の西部に位置する大和平野地域は、大和平野とその四周を取り囲む金剛山や生駒山、矢田丘陵、平城山丘陵、若草山、竜王山、三輪山、多武峰、高取山など低くなだらかな稜線を形づくる標高600m～800mの山々や標高500m程度の丘陵地（以下「青垣」という。）とその裾野に広がるなだらかな山の辺（以下「山の辺」という。）により形成されています。

また、北部低地帯の東部に位置する大和高原地域は「青垣」から続く高原地域が広がり、東南部の室生火山群から高見山地にかけては岩壁群や奇岩、溪谷などの個性的な地形により形成されています。

南部吉野山地に位置する五條・吉野地域は、県土面積の約64%と本県の半分以上を占めており、標高1,000m～1,900mの台高山脈、大峰山脈、伯母子山地の3つの山脈が連なり、その間に流れる吉野川、北山川、十津川がつくり出す深い溪谷により形成されています。また、北西部では、吉野川が大きく蛇行しており、河岸段丘が発達した地形が形成されています。



図1－1 地域区分図

①「日本のふるさと」としての景観 ～多くの歴史文化遺産と豊かな自然による質の高い景観～

近世に発達した城下町や寺内町、商家町などの歴史的な市街地、中世以来の環濠集落などの農業集落や水田、ため池、そして古代以前から存在する「青垣」をはじめとする山々や河川の豊かな自然など、本県の県土は様々な時代の多彩な景観資源によって構成されています。これらが重層することによって、生活環境、歴史文化、自然が融けあった一体的な本県の風土が成り立っており、「日本のふるさと」と呼ぶにふさわしい質の高い景観が形成されています。

この「青垣」の山々や、それを背景とした「山の辺」に位置する古墳、寺社などの景観資源を、平野部に広がる遮へい物の少ない水田や集落などを通して、「低地」から見渡すことのできる「眺め」の豊かさが、奈良の特徴となっています。また、「青垣」の山々や丘陵は、同時に大和平野全体を見渡す「高み」からの「眺め」を確保する場所であり、このような見る場と見せる場の相互性、その視点場の豊かさも奈良における景観の特徴です。

SW W NW N

金剛山 金剛山脈 二上山 二上火山群 明神山 葛城山 信貴山 生駒山脈 膳師 生駒山 矢田丘陵 西ノ京丘陵 奈良山丘陵

(御所) (大和高田) 馬見丘陵 (王寺) 大和川 (斑鳩) (大和郡山)

NE E SE S

若草山 春日山 大和高原 童子山 卷向山 月ヶ平山 三輪山 室生火山群 音羽山 熊ヶ岳 多武峰 竜門岳 竜門山地 高取山 吉野群山

(奈良) (桜井) (三輪) 初瀬川 (桜井) 天香久山 飛鳥 耳成山 (橿原) 飛鳥川 破佛山

③新たな都市景観 ～歴史的な重層性を有した都市景観～

大和平野地域においては、鉄道や道路の整備、都市化の進行とともに人口が増加し、1960年代以降は全国屈指の人口増加県となり、古くからの市街地の拡大のほか、丘陵地の大規模住宅

地や平野部の小規模住宅地、工業団地などの開発が進行し、地域の景観が大きく変化しました。その後、駅前再開発や関西文化学術研究都市などの計画的整備が進められるとともに、駅前や沿道における商業施設の立地が続いており、これらの新たな景観が日常的に意識される景観の主要な要素になっています。

また、大和高原地域と五條・吉野地域においても、駅前・沿道などで新しい市街地が形成され、日常的に意識される景観の主要な要素になっています。

④農林業や地場産業が特徴づける地域の景観

大和平野地域においては、吉野川分水などの豊かな水の恵みを活かした稲作やイチゴなどの果菜類の栽培が行われ、それらの景観は歴史文化遺産や歴史ある集落などの景観とともに「日本のふるさと」としての景観の重要な要素となっています。また、生駒市高山の茶筌や大和郡山市の金魚、桜井市三輪のそうめんなどの地場産業が、地域独特の魅力ある景観を形成しています。

大和高原地域においては、丘陵地に沿ってよく手入れされた茶園やまとまりのある水田が広がり四方を囲む森林とともにのどかに広がる高原の景観を形成し、また五條・吉野地域の北部においては、柿、梨などの果樹園が山の斜面に沿って広がり、柿の収穫時期には山々が朱色に染まるなど、四季折々に彩る豊かな景観を形成しています。

本県の面積の8割を占める森林は、主に五條・吉野地域と大和高原地域に広がり、日本三大人工美林の一つである吉野杉をはじめ、手入れの行きとどいたスギ、ヒノキなどの人工林により、良好な景観が形成されています。

⑤表情豊かな自然景観

大和高原地域、五條・吉野地域の山々においては、全国に知られる桜の名所である吉野山や観梅で有名な月ヶ瀬、山頂部にツツジが咲きほころぶ神野山、紅葉の美しい多武峰やススキが広がる曽爾高原など、四季折々に変化を見せる景観を形成しています。

また、大和高原地域においては、標高400m～500mのなだらかな高原状の地形が続き、室生火山群が生んだ柱状節理の岩壁群や奇岩、青蓮寺川沿いの溪谷や巨岩が連なる鍋倉溪など特異な地形もみられ、豊かな景観を形成しています。さらにこれらの豊かな自然環境のなかには、文化財的価値を有する由緒ある寺社も数多く存在し、歴史を感じさせる景観を有する一方、津風呂ダムなどの人工湖の雄大な眺めを有するなど、表情豊かな景観を形成しています。

また、五條・吉野地域においては、近畿の屋根と称され、日本を代表する原生林を形成し、だいじやぐら大蛇ヶ原、はつきよりがたけ正木ヶ原に代表される他には類のない自然の造形を有する大台ヶ原、近畿最高峰の八経ヶ岳を始めとする2,000m級の雄峰と、吉野川、十津川、北山川などの河川が形づくる溪谷が雄大な自然美を見せています。また、古代から修験道の本山である「吉野・大峯」と3つの霊場「吉野・大峯」、「熊野三山」、「高野山」を結ぶ「修験道・参詣道」は、紀伊半島の自然と人々との深い関わりのなかで形成された景観を持ち、世界遺産に登録されています。

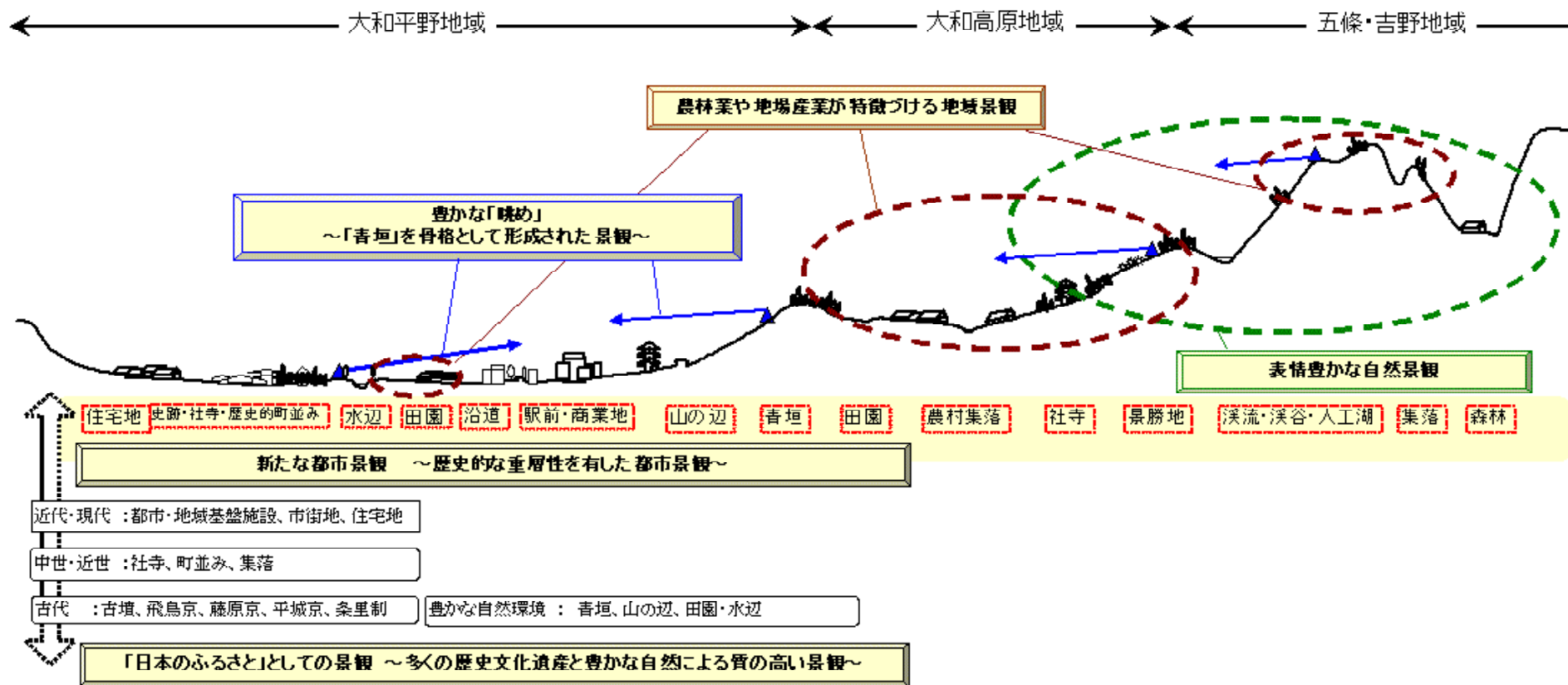


図1-3 地域の景観特性のイメージ図

2. 景観の課題

本県は、優れた景観特性を有する一方で、経済の発展や利便性の向上を優先した都市化の進行、景観への意識の欠如などにより、次のような課題を抱えています。

(1) 歴史的景観の保全・活用

古墳や古代の宮跡、社寺などの歴史文化遺産の周辺地域や歴史的街並みが残る地域においては、都市化の進行や生活様式の変化により伝統的な様式とは異なる新しい建築物に建て替えが進み、その結果、歴史の連続性や伝統文化を感じさせる景観が失われつつあり、その保全が課題となっています。

また、派手な色彩などで目を引く屋外広告物や自動販売機、電線類などが街並みの魅力を損ねている場合がみられ、それらへの対応が課題となっています。なかでも、本県の3つの世界遺産をはじめとする歴史文化遺産の周辺区域は重要な観光拠点となっており、観光振興を図る上においても、世界遺産の魅力を保全し活かした景観づくりが課題となっています。

(2) 眺望景観の保全

優れた眺望を有するところにおいて、都市化の進行などにより、派手な色彩などで目を引く建築物や工作物、中高層の建築物などが建設され、眺望を確保することができないところが増え、「青垣」と社寺・古墳、田園、集落などの景観資源が一体となった奈良の景観の特徴の一つが崩れつつあります。

また、豊かな自然景観や歴史的景観を有するところにおいても、派手な色彩などで目を引く建築物や工作物が建設され、眺望が阻害される状況もみられ、優れた眺望景観の保全が課題となっています。

(3) 市街地景観・沿道景観の整備・整序

駅周辺などの中心市街地において、派手な色彩などで目を引く建築物や屋外広告物の存在、街路樹の緑や歩行空間の不足、自転車の放置などにより、地域の玄関口にふさわしくない景観がみられることから、これらを改善し、地域の魅力を高める景観づくりが課題となっています。

また、本県の特徴であるゆとりある低層住宅地では、宅地の細分化や共同住宅の建設などにより、住環境の変化がみられ、魅力ある景観づくりが課題となっています。また、新たな住宅地の開発により、少しずつ緑が失われるとともに、従来の集落地との境界にあっては、新古の住宅が混在する街並みがみられます。

幹線道路などの沿道において、派手な色彩などで目を引くロードサイドショップが建ち並び、屋外広告物が氾濫し、全国どこにでもあるような雑然とした景観がみられ、観光都市の魅力を低下させています。道路からの眺めや街並みの連続性に配慮した沿道景観づくりが課題となっています。

(4) 自然・風土景観の保全

河川環境の変化や里山における竹林の増加が進行することなどによって、自然環境が変化し、景観に乱れが生じています。また、生活様式の変化は農林業の低迷にもつながっており、遊休農地や放置人工林が増加し、自然景観の保全が課題となっています。

さらに、高齢化や山間部における過疎の進行により、農地、農業用水路、ため池、森林などの地域資源の管理に支障をきたしており、景観の悪化につながっています。

また、担い手不足などにより地場産業が衰退し、地域の個性ある景観が失われつつあります。